

届けますっ! 大和魂 2015年8月 Vol.7



◆略歴
 金沢美術工芸大学陶磁専攻卒業
 尾道市展 委嘱作家
 広島県工芸作家協会会員

◆ゆうじん窯
 陶芸教室、子供造形教室
 茶道具、記念品、日用食器等、陶磁器
 注文制作を行っております。

ワンちゃんも2匹いてとってももんなつこくてかわいいです!
 尾道に遊びに来た際は是非、金野先生の所で素敵な陶芸教室を
 体験してみてください。電話にて予約受付しております。

アトリエ
 住所/尾道市潮見町1-12アネックス立花2F北
 TEL/090-8362-7703
 E-Mail/yuujingama@gmail.com

金野先生の陶芸教室開催日時

木曜日	土曜日
・12~14時	・14~16時
・14~16時	・18~20時
・18~20時	

会費 一人 5,200円(月に3回)
 3ヶ月前納で15,000円

◆出身...尾道
 ◆趣味...バイク、車、お酒も大好きだきうです。

お客様のコメント

今回、お便りをくださった原田茂様は趣味で絵画を描かれており、華々しい受賞歴もお持ちの方です。数ある素晴らしい作品の中から数点ご紹介します。販売もされていますので**原田茂様の絵画に興味がある方は、(有)大名までご連絡下さい。**

原田茂様から
 お世話になっております。
 刀の研ぎや刀の拵等の古物の修復を行っております。
 趣味で油絵もしております。
 まだまだ66歳、人の3倍楽しむつもりでがんばるぞ。

この絵を描くためにイメージした物語です



ベッドに入るといつもおじいさんが昔話をしてくれた。
 西に向かうと大きな城、小さな城、幻の城があるという。
 大人になったらおじいさんの様に旅をしたいと思っていた。
 旅のきびしさや昨日から優しさに包まれた光と風が変わった。
 心まで洗われた気分だ。
 森を抜けると目の前に巨大な城が朝陽に包まれていた。
 感動で息が止まり、体が震える。
 おじいさんが話していた城に会えた。夢の旅に出てよかった。



- 「かみなり」**
 1994- 上野の森美術館、日本の自然を描く展 入選 大翔展 新人賞 大翔会美術連盟、会員
 1995- 上野の森美術館、日本の自然を描く展 入選
 1996- 一枚の絵、日曜画家コンクール 佳作賞
 1997- 大翔展 クサカベ賞 2000- 新美術新聞、掲載
 2001- 大翔展 東京近代美術館賞 大翔会美術連盟、委員
 2003- フランス、ユニヴェール、テザール誌、日本版、掲載
 第2回、トルコ、日本現代芸術世界展、出展 勲章授与
 オーストラリア、プリズベン出展
 2004- 第3回、東京ABC展、大賞
 美の解放展、フランス、ルーブル美術館 プレミア賞
 美術春秋掲載 宮内庁、各大使館他、世界各国美術館、各国図書館、
 各国大学、クイーンエリザベス監、永久収蔵
- 「龍」**
 2005- 大翔展 奨励賞
 2007- 大翔展 審査員特別賞
 2012- 大翔展 左近賞
 2014- 大翔展 秀作賞

コメントの返信

お手紙と絵の写真、ありがとうございます。どの絵を見ても素晴らしくて、描かれる作品に対して物語があり、感性が本当に素晴らしい方なんだと感じました。だからこそ、数々の賞を頂けるのですね!! 私は絵に関して全然詳しくはありませんが、原田茂様の作品は、素直にとっても素晴らしく感じました。これからも人生を3倍楽しみながら、素敵な絵を描き続けて下さい。 中堀

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せくださいお待ちしております

ホームページ <http://daimyou.com/> **リニューアルしました**
 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
 TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

—経営理念—
 有限会社大名は「届けますっ大和魂!」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

—目次—

- 1 陶芸を体験してきました (中堀(なかほり))
- 2 語ります大和魂 (島谷(しまたに))
- 3 ハナエモンのタイムスリップ (花本(はなもと))
- 4 金野さんプロフィール (中堀(なかほり))
- 5 お客様のコメント (中堀(なかほり))

陶芸を体験してきました~

こんにちは、中堀明美(なかほり あけみ)です。尾道の作家さんで当社のオリジナル茶碗も造って頂いている、金野剛(かのう つよし)先生の所で陶芸を体験しました。(金野さんのプロフィールは後ろのページにてご紹介させて頂いております)

最初に「手ひねり」という造り方を教わりました。粘土みたいに軟かい土を丸めて手回しロクロの真ん中に置き、自分の好きな形に造り上げていきます。大名一同:「会社で使えるようにお洒落なコーヒーカップを作ろうや~!」ですが私のは、茶碗になりました。
島谷:「いや~楽しいわ~!これ性格ですよ~!」
社長:「たーちゃん(島谷)上手いね~!形がいいわ~!」
中堀:「先生~、私のはどうやっても横に広がります(泣)」
 先生が、優しく指の使い方や、力の入れ方を教えてくれたお陰で、なんとかコーヒーカップの形に戻りました。



先生:「じゃあ次は、電動ロクロをしてみましょうか!」
 先生が土をコネコネ...続いて、社長が先生の見様見真似でコネコネしていると、「見習いの最初はこればかりさせられるんですよ~。空気が入るとろい茶碗になるから、空気が入らないようにする大事な作業ですからね~。3年位はこればかりしてましたね~」と先生。
 努力、忍耐、技術...と修行して、大量生産ではなく一つ一つに魂を込めた作品だからこそ価値があり、一人前の作家さんとして認められると改めて感じました。

先生:「電動ロクロでつくる場合は、水を沢山つけて芯をつくらせていき、ボールの形をつくります」



手際のいい先生のお手本
社長:「わ~すげえキレイじゃわ!見ようて気持ちいいわ~早くしたいわ~」と言っていた社長がいざ電動ロクロをすると以外にも上手く、慎重に形をつくり先生に「なかなかキレイですよ~」と褒められ終始ご満悦でした。私は、気持ち空回りし力が入りすぎてしまい、6回中4回は駄目にしてしまい改めて、自分の不器用さに気づかされました(泣)
 真剣な顔してます

この日の体験はここで終了しましたが、高台(こうだい)を削る作業や絵付けは、次回体験する予定です。完成次第、また次号にて掲載させて頂きます。自分で何かを造るのは凄く難しく、改めて日本の伝統を生かした職人さんの技術の凄さを感じました。素敵な体験が出来て、もっと日本の陶器が好きになりました。

皆様は陶芸を体験した事ありますか? あれば是非とも次回の作品の参考にしたいので写真を拝見させて下さい!!
 三人の作品です



大和魂

語ります

いつも大和魂を読んで頂きありがとうございます。
この度語らせて頂きます、島谷貴子(しまたにたかこ)です。
先月号の備前伝に続き、今号は五箇伝の「大和伝」(やまとでん)について語らせて頂きます。



五箇伝の中で最も古く、日本刀の原点と言われているのが「大和伝」です。
なぜ、最も古いと言われているかというと、794年に平安京(京都)へ都を移されるまでは、奈良が都だった為、その当時の政権下で刀剣の製作があったからです。
都が京都に移動すると注文がなくなりどんどん衰退していきました。
しかし平安時代後期、実質的に政権を握っていた藤原家が仏教重視だった為、奈良の寺院にも力を注ぎ、僧兵を沢山抱えていったことで大和鍛冶の需要が再興されました。その際「大和五派」(やまとごは)と呼ばれる流派が興りました。

大和五派とは...

- せんじゅいん 千手院**
大和伝の中で最も古い流派
- てがい 手掻**
東大寺転害門の外辺に居住した一派
- たいま 当麻**
当麻寺に関係があった一派
- ほうしよう 保昌**
大和国高市郡で作刀していた一派
- しっかけ 屍懸**
手向山(たむけやま)八幡宮に居住していた説があるけど、はっきりしていない

なぜ?

このように大和鍛冶の多くが何故、寺院の名を流派として使用していたのか?

～なぜなら

寺院の専属鍛冶として、寺院を守る僧兵の武器を造っていたからです。鍛冶場は現在の奈良県に現存する、東大寺や千手院、当麻寺などの門前や、近隣、寺院同士を繋ぐ街道の脇などで作刀していたそうです。

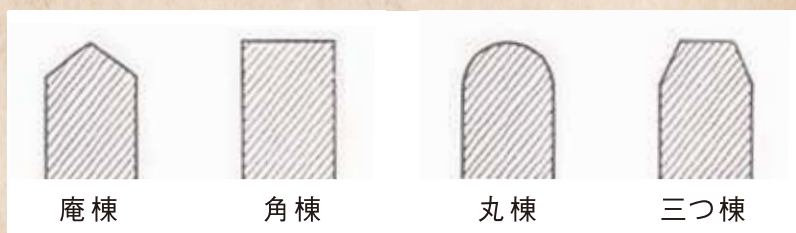
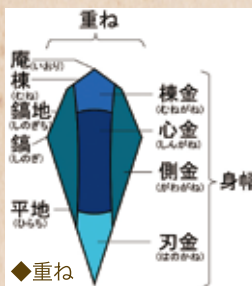
度重なる内戦・実戦等に使用する為、実用的な造りになっているのが特徴でした。また、無銘の物が多いというのも特徴で、その当時依頼主に直接納めたり、高貴な人に献上する場合等は作者の名を入れてはいけないというのが礼儀だったからです。
一生懸命、造り上げた物へ自分の名前すらも残せず、寺院と運命を共にした、鍛冶達は一体どんな想いだったのでしょうか...

なぜ?

そんな実用本位な大和伝とは一体どんな刀?

～なぜなら

重ね(かさね)を厚くし、重くならないように鑄(しのぎ)を薄くしている為、鑄が高い。また棟(むね)は庵棟(いおりむね)で、高くなっているのが特徴です。



◆鑄の高さ

◆棟の種類

五箇伝の中で、最も強い*沸(にえ)が激しいのも特徴です。
(*沸とは、刀を光に当てた時刃文を見て肉眼で一つ一つを認識できる粒のこと)しかし、その特徴も室町時代に入ると強くなり、直刃なのが特徴として残るくらいになっていきました。



◆にえ

私は日本刀とはどうやって使われていたのかというのが、疑問になりました。
日本刀は人を殺める物だと思っていましたが、合戦中に人を斬るというよりも、鎧の間の隙間を刺すということが目的だったようです。
実戦的に使われていた大和の刀は太いが軽く鋭かったように思えます。
*刃こぼれ等がある刀を手にする機会があれば、実用的だったんだろうかと再度しっかり見ていこうと思います。
(*刃がぼろぼろな状態)



◆刃こぼれ

最上義光編



ハナエモンの

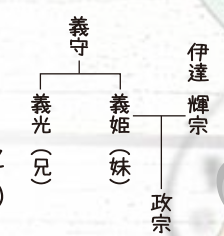
タ〜イムスリップ



今号のタ〜イムスリップは前号の伊達政宗の伯父・最上義光(もがみ よしあき)(1546-1614年)です。
義光の妹・義姫(よしひめ)が伊達政宗の母親です。



最上 義光



当時伊達家の支配下にあった最上家を24歳で継いだ義光は、**※隠居していた父との関係が険悪になってしまいます。**
※父・義守(よしもり)が長男・義光に代えて次男・義時(よしとき)を当主にしようとしたのが原因と言われているようです。しかし、義時の名前が出ている信用出来る資料がない為、詳しい原因は分かっていないようです。
父子の争いに、伊達輝宗(てるむね:政宗の父)が参戦して、影響力を強めようとしてきます。しかし名將の義光が善戦し、伊達家からの独立に成功します。38歳の頃には24万石の戦国大名になります。関ヶ原の戦いでは家康の東軍についたことで、57万石の出羽山形藩(でわやまがたはん)の初代藩主になります。



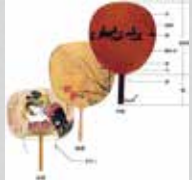
大河ドラマ「独眼竜政宗」では主人公の政宗に対して敵対する立場で、悪役で描かれていた為、**義光ファンからクレームが殺到したそうです。**
羽州の狐将(うしゅうのこしょう)というあだ名があるので、騙したいしまくるイメージが強い義光です。**確かに調略を駆使して領土を広げていった義光ですが、当初の主を裏切り、義光に寝返ったのには度量の広さが知れ渡っていたからだそうです。**

自分が滅ぼした家の再興

義光が滅ぼした寒河江氏(さがえし)の家来達からの願いを聞き入れて、寒河江氏の再興をした。

「大将と士卒は団扇の

ようなもの:
要=大将
骨=指揮官
紙=兵卒」



「どれが欠けても用はなさないのだから、士卒とは我が子のようなものだ」と語っていた。

鮭様の義光様

海につながる庄内(しょうない)を領地にした時に、「これで大好物の鮭が食べまくれるよ〜!」と家来に手紙を書いた。このエピソードから鮭様とも呼ばれているそうです。



一方で体格も良く、武勇に優れた武將としてのエピソードも残っています。

義光公の力石

7、8人で動かした大きな石を15歳の義光がかんたんに転がした。
山形市・蔵王温泉(ざおう)に現存しています。



◆義光公の力石

貴方は大将でしょ〜泣

一騎で敵陣に突っ込み敵の首を取り、颯爽と戻ってきた義光に氏家守棟(うじいえもりむね)が、涙ながらに「御大将ならば、軽々しい振る舞いは控えなさいと諫(いさ)められた。

暗殺計画を取りやめ、褒美を!

大井五郎(おおいごろう)という豪傑が、横暴すぎるから暗殺してくれと頼まれ、義光は城に呼び寄せます。
5、6人前の食事をかんたんに食べてしまった五郎に「凄いね〜!僕は豪快な人が好きだから、褒美をあげるよ!!
城に呼んだのは、家来達に暗殺してくれと頼まれてたんだよ〜。あんまり無茶し過ぎないでね〜!」となってしまった。

武勇にも優れ、家来達からも慕われた義光が直接的な戦闘よりも調略を重要視したのは、最上家の体力もあると思いますが、領民が戦死したり、領地が荒れたり、荒らされたいしないからだったのではないのでしょうか。

